

身体疾患に伴う自殺念慮の研究のまとめ

24ヶ月にわたる構造面接を利用して収集された身体疾患症例のデータによると、自殺念慮は急性期に約7%の症例、リハビリテーション期には約11%の症例があらたに自殺念慮を認めた。もともと、重要な自殺念慮危険因子は大うつ病の合併である。身体疾患重症度は独立した自殺の危険因子でないことも判明した。つまり、自殺念慮の出現は、身体疾患における単なる心因反応とは異なる。急性期に大うつ病を持つ症例では、リハビリテーション時期においても自殺念慮をもちやすいこともわかった。フォローアップのデータより、大うつ病の改善とともに、自殺念慮は消失し、大うつ病が改善しない症例では自殺念慮は持続していた。身体疾患にともなううつ病であっても、通常うつ病と同様に、適切な治療介入により治療可能である。したがって、早期よりのうつ病の発見・治療が何よりも重要である。

また、社会サポートの欠如も自殺念慮を出現させる重要な要因であることがわかった。身体疾患罹患期よりのソーシャル・ワーク活動が自殺を防ぐ有用な手段となりえるであろう。

いわゆる“合理的”な自殺念慮（精神疾患の合併がなく、自殺念慮を持つ症例）についても検討した。身体疾患急性期に“合理的”自殺念慮をもった症例は、フォローアップ時期

には自殺念慮は改善しており、“合理的”自殺念慮は短期間のものである点が示唆された。さらにリハビリテーション期に“合理的自殺念慮”を持った症例のほとんどは、うつ病性障害の残遺症状あるいは前駆症状であることがわかり、合理的自殺念慮はまれであることがわかった。

本邦の総合病院における調査でも、約5-7%の身体疾患で入院中の症例が自殺念慮を生じることがわかった。これらの症例の大多数がうつ病性障害に罹患しており、自殺の予防のためには早期のうつ病発見・治療が不可欠であることがあらためて示された。さらに、「死」に関する話題を取り上げることに患者および家族ばかりでなく、治療に携わっている医療スタッフ側にも抵抗感があり、未だに医療現場では「死をタブー視する傾向」が認められた。このような心理的な問題や周囲の環境が、自分の抱いている自殺の気持ちを言葉に表出したり、他者に相談したりすることをできなくさせてしまっている。そのことが患者の苦悩を強めてしまうことにもなり、自殺念慮の発見が遅れたり不適切な対応が行われたりしてしまう可能性が高まっている点も重要である。

自殺念慮を有する身体疾患（末期癌）に伴う大うつ病症例への精神科介入研究も行った。この結果では、介入した症例で、十分な精神科治療の時間があつた症例では自殺念慮は改善したが、十分な時間がなかつた

症例（つまり、末期癌症例対象のため十分な精神科介入が行われる前に死亡してしまった症例）では自殺念慮は改善していなかった。ここで示された結果からも、早期にうつ病を発見し、治療することで自殺念慮は改善することが確認され、早期発見・治療の重要性が示された。

これらの一連の研究から、身体疾患に伴う自殺念慮はうつ病性障害と関連しており、適切な介入により改善させ得ることがわかった。“病苦”による自殺は一見“合理的”と考えられるが、それは誤りであることがデータより認識された。このことより導き出される提言は、自殺予防において、プライマリーケアならびにリハビリテーションに携わる医師をはじめとした身体科医師に対しての、うつ病と自殺に関連する教育が最も重要であろう。統合された Behavior health care team approach がケアの質を改善するばかりか、自殺予防になるはずである。

研究発表（平成12年度）

学会発表

Kishi Y, Robinson RG, Kosier JT:
Suicidal ideation in medically ill.
Academy of Psychosomatic Medicine
47th Annual meeting, Palm Springs,
California 2000, 11

論文

Kishi Y, Kathol RG: Putting biological,

personal and social factors into perspective when evaluation patients who attempted suicide. *Medicine & Psychiatry* (in press)

岸泰宏、保坂隆、黒澤尚：救命救急センターでの自殺統計表にういての提案 *医学のあゆみ* 2000;194:555-559

Kishi Y, Robinson RG, Kosier JT:
Suicidal ideation among patients with acute life-threatening illness (in press)

現在投稿中

Kishi Y, Robinson RG, Kosier JT:
Suicidal ideation among patients during the rehabilitation periods after life threatening illness

Yoshikawa E, Akechi T, Akizuki N, et al.
Clinical outcome of idea of suicide in major depression with terminally ill cancer

その他現在投稿準備中の論文数編